

Canon EF^S LENS

EF-S10-18mm f/4.5-5.6 IS STM



IMAGE STABILIZER

JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STMはEF-Sレンズ対応EOSカメラ*用に開発された、手ブレ補正機能に加えて快適な動画撮影を実現した高性能超広角ズームレンズです。

* EF-Sレンズ対応EOSカメラは、以下のとおりです。
(2014年3月現在)

他のEOSカメラには装着できません。

EOS 7D、EOS 70D、EOS 60D、EOS 60Da、
EOS 50D、EOS 40D、EOS 30D、EOS 20D、
EOS 20Da、EOS Kiss X7i、EOS Kiss X7、
EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、
EOS Kiss X3、EOS Kiss X2、EOS Kiss X50、
EOS Kiss F、EOS Kiss デジタルX、EOS Kiss
デジタルN、EOS Kiss デジタル
マウントアダプター EF-EOS Mと併用時に EOS
M2*1、EOS M

*1：国または地域によっては取り扱いがございません。

- ISはImage Stabilizer (手ブレ補正機能)の略称です。
- STMはStepping Motor (ステッピングモーター)の略称です。

安全上のご注意

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- レンズ、またはレンズを付けたカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

使用時のご注意

- 本レンズを、EOS Kiss X6iiに装着して撮影する場合は、カメラのファームウェアを必ずVer.1.0.4以上にアップデートしてください。
- EOS Kiss X6iiのファームウェアがVer.1.0.4よりも古い場合、まれにカメラが動かなくなることがあります。そのときは、一度電池を抜いて、再度電池を入れ直してください。
- ファームウェアのアップデート情報については、キヤノンのホームページでご確認ください。

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。レンズの故障の原因になることがありますので、このような場所にレンズを放置しないでください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

撮影上のご注意

このレンズは、フォーカスレンズ（ピント合わせを行う役割のレンズ）の駆動にステッピングモーターを用いています。

このモーターはズーミング中もフォーカスレンズを動かしています。

1. 電源が入っていない状態でのご注意

電源を切った状態やオートパワーオフで電源が切れた状態では、モーターが作動しないため、次のことにご注意ください。

- マニュアルフォーカスでのピント合わせはできません。
- ズーミングを行うと、ピントズレが生じます。

2. レンズの休止状態でのご注意

このレンズは、レンズを操作しない状態が続くと節電のため、カメラのオートパワーオフとは別に休止状態になります。

カメラの電源が入っていても、レンズが休止状態のときにはモーターが作動しないため、次のことにご注意ください。

- マニュアルフォーカスでのピント合わせはできません。
- ズーミングを行うと、ピントズレが生じます。
- レンズの休止状態からの復帰には、シャッターボタンを半押ししてください。

3. 初期リセット中のご注意

カメラの電源を入れたとき、およびオートパワーオフで電源が切れたところからシャッターボタン半押しで電源を入れたとき*1、フォーカスレンズの初期リセット動作が行われます。

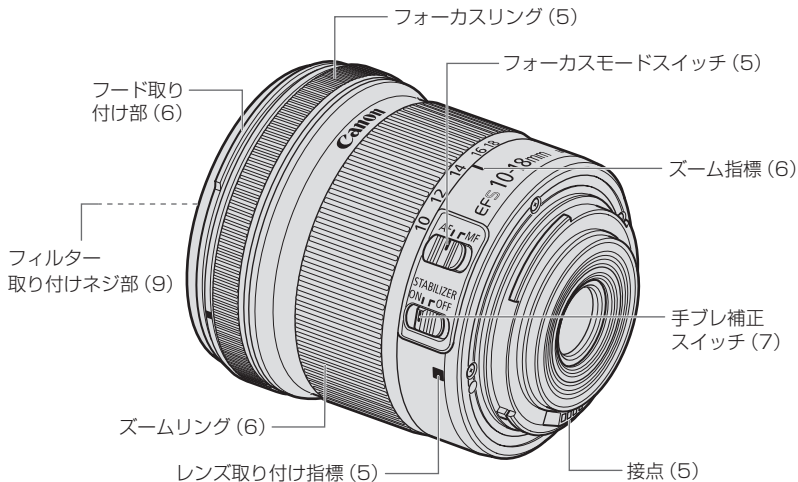
- 初期リセット中は、ファインダーでボケが変化する像が見えませんが正常動作です。
- 初期リセットが完了する約1秒間*2、撮影操作をお待ちください。

*1：EF-Sレンズ対応EOSカメラのうち、以下のカメラにおいて。

EOS 7D、EOS 60D、EOS 60Da、EOS 50D、EOS 40D、EOS 30D、EOS 20D、EOS 20Da、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、EOS Kiss X3、EOS Kiss X2、EOS Kiss X50、EOS Kiss F、EOS Kiss デジタルX、EOS Kiss デジタルN、EOS Kiss デジタル

*2：ご使用のカメラにより異なります。

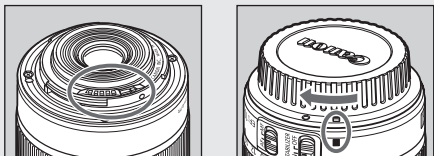
各部の名称



● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

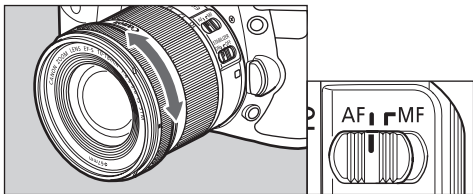
1 レンズの着脱

レンズの着脱方法については、カメラの使用説明書を参照してください。



- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、ダストキャップを付けてください。取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの□の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

2 フォーカスモードの設定



オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

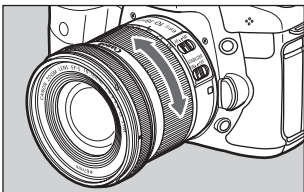


カメラのAFモードがONE SHOT AFのときは、AFでピントを合わせたあと、シャッターボタン半押し状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。(フルタイムマニュアルフォーカス)



- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- 電源が切れた状態では、MFでのピント合わせはできません。

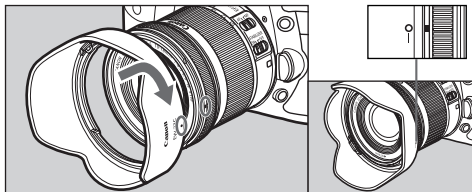
3 ズーミング



ズームリングを手で回してズーミングします。

- ピント合わせはズーミングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズーミングすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。
- 電源が切れた状態でズーミングを行うと、ピントズレが生じます。
- 静止画の露光中にズーミングを行うと、ピントズレが生じ輝点などの軌跡がボケます。

4 フード (別売)



レンズフードEW-73Cは、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。

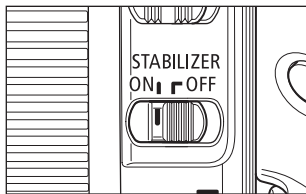
フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端の赤指標をあわせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

5 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。

また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じて最適な手ブレ補正を行います。



1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

2 シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

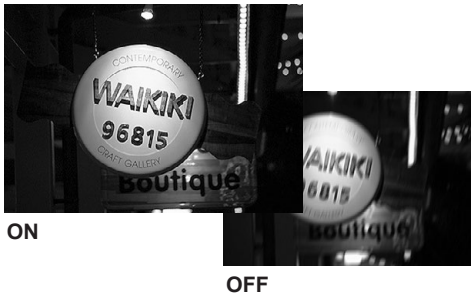
- ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を〈ON〉にすると、〈OFF〉の時にくらべて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影時間が少なくなります。

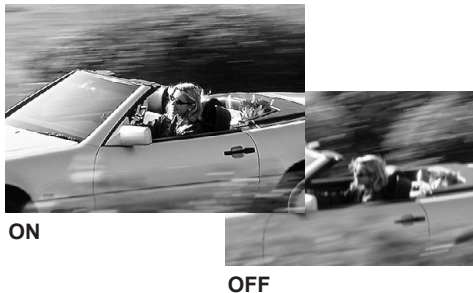
- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合も支障なく撮影できますが、バッテリーの消耗を防ぐため手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影環境によっては、手ブレ補正効果が低下する場合があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブEF12 IIを使用しても作動します。
- カメラのカスタム機能でAF作動操作を変更したときは、変更後のAF作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況



- 移動する被写体を流し撮りする場合

6 フィルター（別売）


フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。

- フィルターは1枚のみ使用できます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C B（67mm）を使用してください。
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外して行ってください。

7 エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブEF12 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

		撮影距離範囲(mm)		撮影倍率(倍)	
		近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	10mm	使用できません			
	18mm	137	142	0.87	0.70

 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

8 主な仕様

焦点距離・明るさ	10-18mm F4.5-5.6
レンズ構成	11群14枚
最小絞り	F22-29*
画角	対角 107° 30' ~ 74° 20'、垂直対角 74° 10' ~ 45° 30'、 水平 97° 10' ~ 64° 30'
最短撮影距離	0.22m
最大撮影倍率	0.15倍 (18mm時)
画界	約174×267 ~ 101×152mm (0.22m時)
フィルター径	67mm
最大径×長さ	約74.6×72.0mm
質量	約240g
フード	EW-73C (別売)
レンズキャップ	E-67 II
ケース	LP1116 (別売)

* 数値は絞り表示が1/3段毎の場合です。1/2段ごとの場合はF22-27になります。

- 35mmフォーマット換算での焦点距離イメージは16-29mmとなります。
- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。また、クローズアップレンズは使用可能なサイズがありません。
- 絞り値は、カメラ側で設定します。ズーミングによる絞り値の変化はカメラが自動的に補正します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ
canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター
050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00～18:00
(1/1～3は休ませていただきます)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-2111-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon